

○臨床心理職員専門試験問題例

問題

次の架空事例を読んで、設問1～5に答えなさい。

Aは児童相談所が関わっている幼稚園年長組(6歳5か月)の女儿。母は未婚でAを出産。母の就労のため、Aは出生時より乳児院で生活。始歩1歳1か月、初語1歳4か月。乳児院では物音に敏感でよく泣いていた。母との交流が生後10か月頃より途絶えていた中、Aが2歳の時に乳児院から児童養護施設へ生活の場を移した。母が実家へ転居したことを契機に、母との交流はAが5歳を過ぎてから再開した。現在、母(26歳)は、母方継祖父、母方祖母、母方叔父(24歳)、母方叔父の子(男児3歳:叔父が妻と離婚し引き取っている)と生活していて、母方継祖父から、Aを引き取って一緒に生活したいという強い希望が施設職員や担当児童福祉司に伝えられている。

Aは児童養護施設での生活で、特定の職員に対して甘えが強く、要求が通らないと長時間泣きわめくことが頻繁で、時には物を壊したり相手を叩いたりすることもある。同年齢の子どもたちと関わるのが少なく、おとなしい年下の子どもには命令口調となることがあるという。このような傾向は、母宅への外泊直後に特に顕著になるが、幼稚園では比較的問題なく過ごしており、施設生活の中で表れやすいとのことである。

小学校入学前にAの現在の状態を把握し支援に活かしたい、また、家庭引き取り希望への対応を相談したいとの施設職員からの依頼を担当児童福祉司が受け、児童心理司がAの心理検査と面接を行うこととなった。

心理検査は、新版K式発達検査2020を実施した。Aが面接室に単独入室し、検査課題に緊張気味に感じ始めるが、半分ほど応じたところで「B先生(同行来所した施設職員)と一緒にいい」と泣き始め、検査に感じなくなる。児童心理司がAと手をつないで面接室を出てB先生を探すのが不在であったため、面接室に戻ろうと促すが、頑なに面接室に戻ろうとしない。Aは30分ほどエレベーター前に座り込んで待ち、戻ってきたB先生に励まされると、一転してスムーズに面接室に入り、残りの検査課題に取り組んだ。児童心理司が日常生活などについてAに質問してみるが、「B先生がいい」「帰りたいもん」と言うのみで、話が広がらなかった。新版K式発達検査2020の結果は、全領域DQ 84、DA 5:5、CA 6:5(認知・適応領域DQ 82、DA 5:3/言語・社会領域DQ 86、DA 5:6)であった。

設問 1

Aの状態像とその背景要因を総合的にアセスメントしなさい。

設問 2

Aに必要と考えられる支援について児童心理司の立場から述べなさい。

設問 3

架空事例に記載された情報をもとに、Aの家族のジェノグラムを書きなさい。縦型・横型等の形式や記号の表記については不問とする。

設問 4

Aの家族再統合を目指すにあたり、児童相談所としてどのようなことが必要か、具体的に述べなさい。

設問 5

児童心理司がAの母と面接することとなった場合の対応と、その際の留意点を述べなさい。